



Vol.1

太田川を 見つめて

広島環境サポーター
ネットワークの調査で
わかったこと。

広島環境サポーターネットワーク
河川部会 保光義文



私たち環境サポーターネットワーク河川、海洋部会では、1996年から毎年太田川放水路並びに脈川の水質、生物、底質などの調査を行っており、四季折々に変化する太田川の変遷に驚いています。

最近、広島湾再生のプロジェクトや研究者あるいは環境団体による色々なデータに基づく再生提案など数多く目に飛び込んで来ており、再生は可能であることを信じ、私たちもモニタリング調査を継続しております。

さて、我々の調査の目的は、現況における川の状況を知り、色々出てくるデータと資料により導き出される提案を考え実行することであるが、例えばヘドロの浄化について試行するに当り数多くの壁に行動が躊躇されるのである。

その一つが経済的な問題であり、ヘドロ浄化にかかる費用は大変なものがある。2008年に行った海田湾でのカキ殻を使った浄化は経費をかけずに行ったが、分析費用その他で3万円は費やしたと思う。

また、現在ではゼオライトを使用し干潟再生を試みたり、石炭灰を利用した浄化方法など数多く試行されているが、中でもEM菌を使った浄化法は地域によりその効果はまばらであり、市や県では、現況でEM菌散布の試行には賛成ではない様である。

あらゆる方法を試みることは大切であるが、その方法が良いか悪いかは小規模な実験を行って(例えば室内実験等)判断し、その上でフィールドに展開していくことが重要である。その為にもモニタリング調査は大切であり、この調査は続行していくつもりである。

少し横道にそれたが、今現在広島デルタを流れる川の状況は西高東低の状態である。

即ち、東に行くほど川は汚れているのである。その最たる脈川は広島駅前を流れる、猿猴川である。干潮時に見られるヘドロの干潟は延々と続き、河口に至るまですべてヘドロ化しているのが現状である。何故この様な状態に陥ったか、これは脈川の一大改修で行われた放水路の施工に伴う水門の設置による水量調整にあらうかと考える。

無論のこと、放水路の施工は洪水調整を目的とし市内に展開する海拔0m地域の洪水対策である。しかしながら放水路と5本の脈川に振り分けられた水量は、猿猴川の地理的条件からして減少し、川の水は停滞するのである。この事によりヘドロが堆積し、足を一歩踏み入れると脱出が不可能なまでのヘドロ層が展開している。



そこに生息する底生動物は汚濁に絶えうる種であり、また干潟は見た目にも汚く、そこに立つとヘドロ臭が充満するのである。

満潮時の駅前大橋付近は水が満々として、ビルの明かりやネオンが水面に反射し、一段と冴えて見えるのである。しかし、この夜景は一種、鏡の様な現象を映し出し、河床に広がるヘドロは光を吸収し、水面の反射のみを見て美しい水の都広島であると感じているに過ぎず、本当の夜景はもっと違った見え方があると思われる。

私たちは広島に住み広島を愛しています。

これからも広島の良いさを助長し環境活動を展開するつもりである。

広島環境サポーターネットワークのホームページはこちらです。

<http://hiroshimakankyonet.com/>